

若狭 名 網 製 法 奇

北陸道を七ヶ國。北海
 了。北のむつをさして南
 乃方の陸路を
 先第一を若狭のま。丹波
 跡。よりの水の舟。海。海。海。

丸印

北陸道の往昔崇神
天皇のころ辺夷王
化土帰ビゴジビ大
彦命と北陸をまかり
征伐すむ翌年平
治して帰陣りし
此時代北陸と総々
越の国といふ其域廣
大なりと今の越前の
地より遠く津軽乃

精多あり。少津河を流す屋分
宮あり。其備の兵一支部
第二番は越前と東
空初る山多々。曲敷原
比羅河あり。其狭の玉を二

地すても越の国とい
越又高志とも書す
○若狭 三郡
大飯 遠敷 三方
田敷 三千百三十九丁
高九万千十八石
○土産 酒厚 砥硯石
筆 幸成石 穴木 履基石
鹿 鱈 海魚 和布 青堅書
揚技 不煮 扱学 薬州

園より。玉内三郡。名を精を足
河乃。縣をたれ。之を。城系
之郡。の之。能。を。理
第二。加。笑。比。事。南。を。花。津
之。河。志。白。山。あり。其。子。を。山

○越前 八郡

今立南條敦賀足羽
吉田丹生坂井大野
田敷三方音美六丁

萬六千九百三十石
昔越の国界廣大か
也と後小越前越中

越后加賀能登出羽
六国ふ分けらるり
廳敦賀 若狭三郡
越前三郡

足羽 越前五郡
福井

○土産奉書身子

雲紙素湊紙 弘奉書
油絹嶋布割紙布
屑頭巾 佐綿切石 砥
連尺 綱代行 李素麵
油桐 駄馬 淇漚 鮭鱈
黄連

○加賀 四郡

河北石川能美江沼

影志まにあま河濱白塩

乃地石川筋をそれま

のとつらあむ 徒ゆして圓を名籍寸

第四小能登を越中の小

うあるゆる大押 在河濱

卯方河 あま味屋 僅よ

通路をまに 在河濱

をそ西ふめぐるに 河濱

をそ白多

第五と越中 在河濱

田數万二千石六丁

高四十六万石余

古ハ加我ト書ナ仁徳
天皇の御代越前国

小併と後弘仁十四年

越前国の二郡と割

て再び加賀国とかに

麗 石川 賀正 金沢

○土産 米 絹 撰糸

笠 萩原紙 鼓皮 澄手 綱

西ノ後ノ山ニシ。知ハ

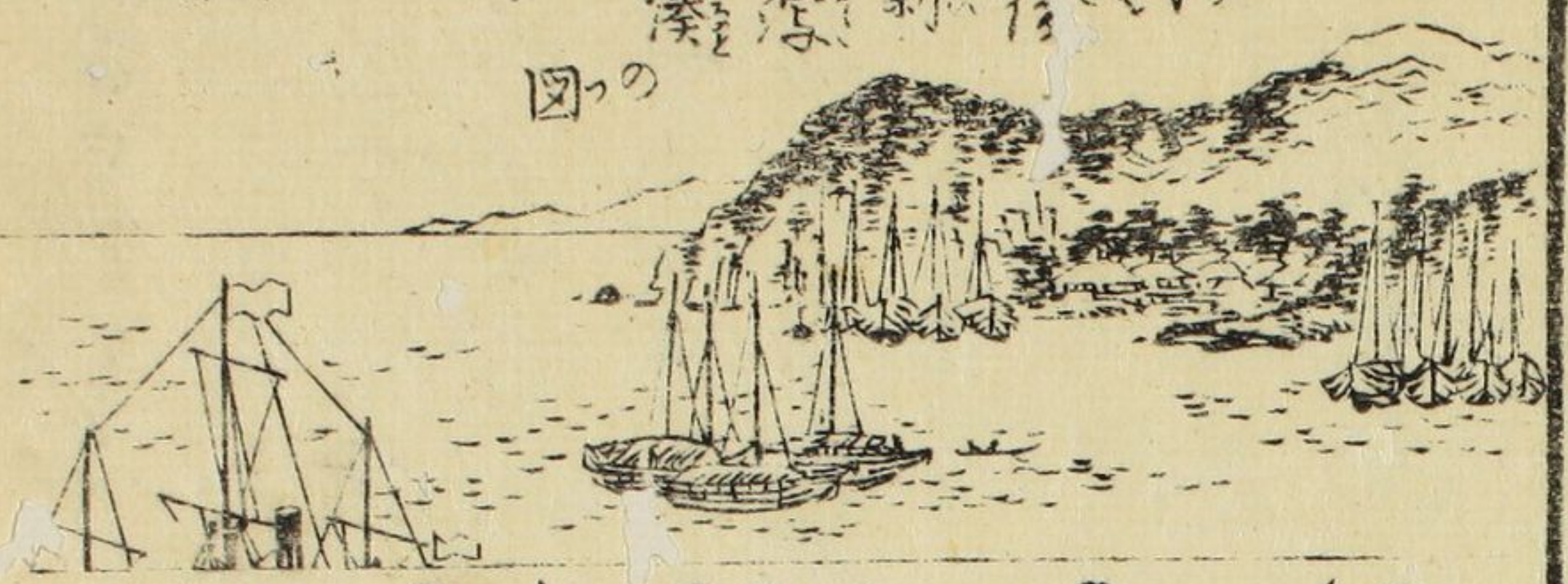
桑ノ原ノ山ニシ。知ハ

佛ノ嶽ノ山ニシ。知ハ

田部道ニ川あると。新川縣

をそ此玉をそ一高ナリ

越前新海



越前新海

第六越後を三城の中

極多て小乃方附ナリ

言もて雪國として。山嶽を

是れ新加波ノ山を記

象眼形硫黄 塩硝黒
梅津

○能登 四郡
羽咋 鹿嶋 鷹至 珠洲

田敷八千四百七十九丁
高七万三千三百石余

古ハ能登等ト書ハ天平
宝亨元年五月越中

ト云ク能登国ト云ク
○土産鯖 素鞘 雪苔

阿比山 後山 何事も貴

大もろし 姫山 後山 何事も

東水の端 旭山 何事も

北に多し 海に多し

大阿 信濃川を以て

海魚類
経油 苦九万石 珍石類

○越中 四郡
射水 磯波 新川 婦負

田敷二千三百九十九丁
高八万八千石余

廳 新川 一田
○土産 法 砂 塩 硝

絹 八講布 鯉 九万石
○越後 七郡

此中央 貴き 新河の港

乃方へまがれ入る 大井山を

多しある 水も多し

出る 是を極此 新河

を以て 大阿 信濃川を以て

蒲原 岩船頭城古志
魚沼 芥羽三島

田數 二万三千七百九十九
萬百十四万石余

大宝二年三月 越中国
四郡と分て當國任す

廳 新添 二郡
柏崎 五郡

○土産 漆 蠟 白布
縮布 臭水 油 白兔 白芥

易城 其まに 磐原 達 是れ

城 後 二 郡 とも なる 磐原 達 是れ

諸 君 此 分 管 あり 是 乃 備 的

兵 一 大 隊 柏 崎 にも 磐原

と 幸 日 にも 磐原 此 廳 外 也

子 黄連 當飯 糸 奥
○佐渡 三郡

加茂 雑太 羽 浅
田數 四千八百七十丁

高 十三万石余
上古ハ 佐渡 島 云 天

平 十五年 越後 国 不 保
す 天平 勝宝 四年 十一

月 云 云 佐渡 国 云 云
廳 相川 一 面

軍 佐渡 を 城 後 より 水

あ した 一 高 向 其 内 地 云 云 岳

お 多 少 なる 理 上 杉 山 二 深 川

檀 持 山 二 四 十 八 瀬 云 云 順 流

天 皇 此 山 後 あり 是 南 水 云 云

○土産金根油幸
黄連強藻小鯛

山陰道八國

崇神天皇廿一年丹波
道主の命小命一丹

狹道ふき一伐一む
十一年討平け帰陣

ゆりかゝり四道將軍
れなり

海濱の濱にては産小丸

和川に稲治あり

山陰山陽ニつぎつぎに車馬

能く長き玉地南山海より

其の地は新穀ニ産とん

修能ありく八ヶ國先ツ

山陰北限次あり

第一是神丹波と云ふ山

高き西水高き山多くと云ふ

會はる水は右川と成て丹波

日本三景の内丹波の天橋立



地理

卷下

○丹波 六郡

船井何鹿栗田多紀

永上天田

田數二万八百五丁

高三十二万四千石余

古ハ丹波又且波但

波とも書と

○土産茶蠟杖丸大

煙州蒲進太布辛灰

拾灰栗藥種類

み流き入る。其方注水を混

命一。山城古堰の川流くるを

第一と丹波はまといふ處

なるも大江山丹波の大川

浦よりの流集りて海を入る。東

○丹後 五郡

与佐加佐中熊野竹堅

田數二万八百五丁

高十四万八千石

和洞六年四月丹波国

の五郡と割て當国を置

○土産野蜘蛛糸箔酒由

海魚鰯鮎海松葛菫

胡。蒲黄。手海老海菜

○但馬 八郡

又丹波三河あり中央

南に宍戸を岬を天の橋

立といふ。是をむすむを

此一等とてを稱しこれ

第一但馬を川多々流浦

朝来。養父二方。七味。
気多。城崎。美含。出石。

田敷 八千七百丁

高十四万四千石余

往古ハ沮屬馬ヤ多

ほ馬ともしふ

廳 豊岡但馬 豊岡

○土產 銀砥石 真綿

夢 小參 芝草 黄連 白

木 半夏 温石 雉鳥 特牛

長大河。流。東。小。海。

南。方。生。野。乃。

山。あり。群。少。河。魚。の。城。

乃。空。可。ハ。水。由。名。云。此。涌。

泉。此。全。之。流。を。糸。ハ。全。國。と。

柳行李 益州 藤 麦 等

細 多

○因幡 八郡

岩井 法美 八東 八上

智頭 邑美 高州 気太

田敷 八千七百丁

高十七万八千石

古ハ稻葉 まく 糸 羽

廳 鳥取 元 鳥取

少。を。官。轄。を。

第四。因幡。を。因幡。川。を。

一面。を。流。を。終。は。一。の。

廣大。加。苗。川。を。成。小。乃。

因幡
伯耆
隱岐

○土産 木綿海魚

帆立貝 日柱 生糸

魚 海素 刺木 檼 萩原

紙 引田紙

○伯耆 六郡

河村 久米 八橋 行入

合見 日野

田敷 八千十六丁

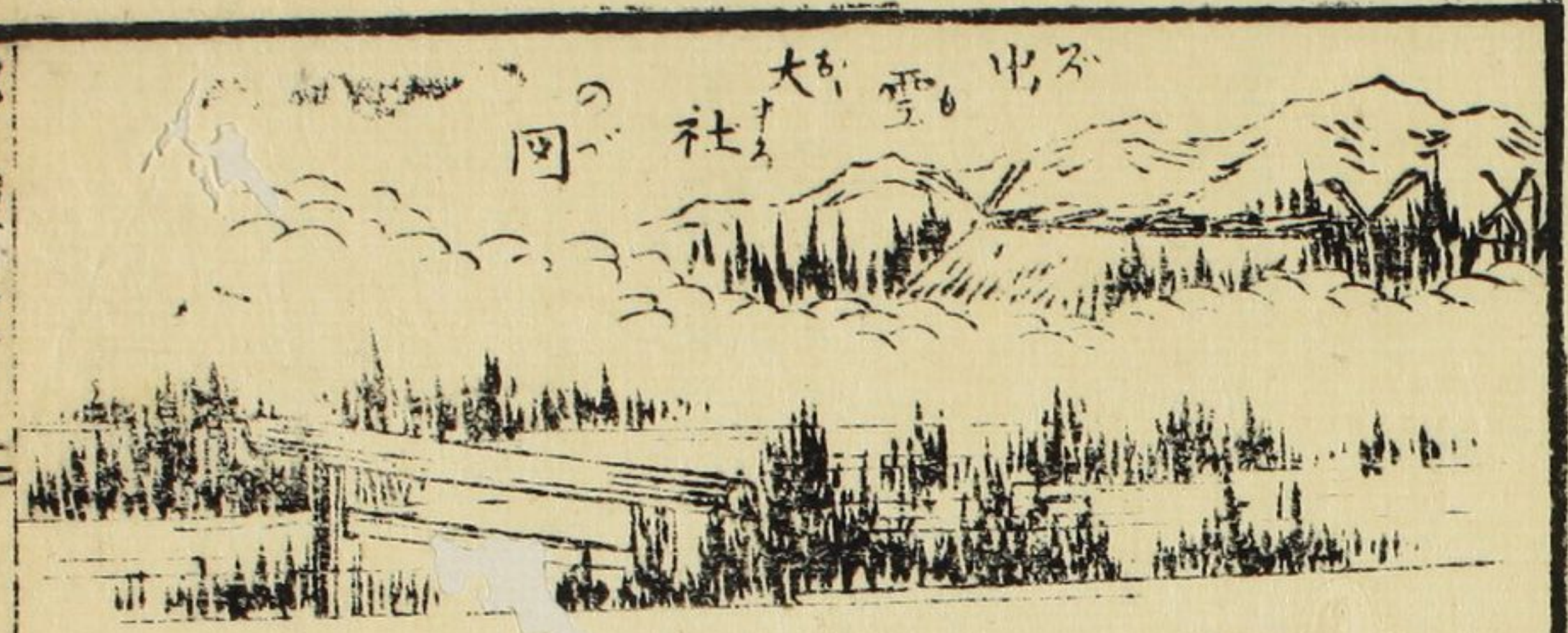
わさ流まきと東と海に入る。

其鳥取と餘所あり。因幡

伯耆と隠岐は三國也

とる香積寺

第五伯耆と南方ふ山を



城角を北と海は甲

そむと路の三保が関を

對ひける。取も高まを大

山と西日相川東は

橋は山ありそはを急川。

高二十万八千石

昔ハ伯岐マシク伯岐共

書す

○土産 汶瀾蘇麻

華範屨斗木綿

○出雲 上同 十郡

嶋根神門秋鹿楯縫

出雲鍛石 仁冬 大原

能義意宇

田數九千九十六丁

皆少海ハ流き出た

第一出雲北國ノ事也

出雲楯縫社麻より也

根より北四郡ノ事也

都て大岬長方瀛ノを色

高二十八万石

夫當國ハ神代ノむり

須佐ノ平命由みり

不服人とも征伐す

ひより以来大己貴神

まて此國と所領し

其年歴いと長く黄泉

は通ひるひなる其

なりとの傳人伊賦夜

坂の古跡なり

寺と杵築北方社をわとし

日涉寺の位田の浦より

寺に在りて寺ノ跡の

跡を以て寺ノ跡とす

第七石見寺あり備はる

廳 島根一田 松江

○土産 蠟燭 十六島

苔 人參 和藥 木綿 扶

奴 蚌 漆 鱈

○石見 六郡

安濃 迹摩 邑智 那賀

美濃 鹿足

田數 七千十二丁

高 十八ヶ石余

廳 濱田一田 濱田

つねる江は川を國內貫き

そのすく 石見 濱田 縣 治 建

西を川は流合す。高角川の

ち河とるも石見濱田

なるまれば出づ濱田縣治建

○土産 銀湯 伏蜂

窟防風 基石 榉

○隠岐 四郡

海士 智志里 越智 周吉

田數 六百二十四丁

高 一万二千五百石余

○土産 桐材 菜材

和布 鮑 煮海鹿

上古の隠岐島と云

まこと意岐とも書凡

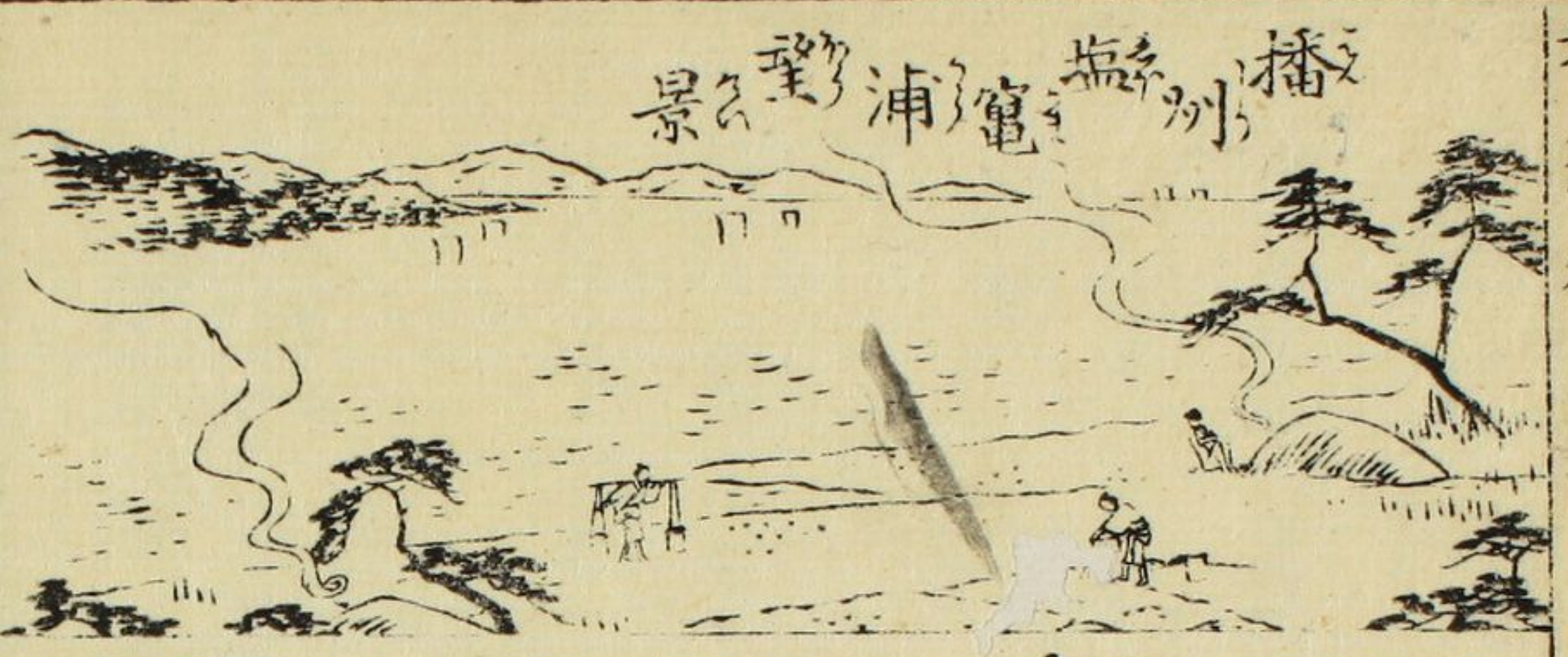
貫き其の國を名 稱す

第八隠岐を雲の川四島

金も係一まを二を小をく一

矣岬濱多々廣大なり

別島連無数あり



山陽道乃八ヶ國

第一播磨をまれば。加古川

西をたれ河を中へ市川

小瀬以南の海岸は石浦。

舞子に濱しよるは乃。

○播磨 七郡

明石美婁加古印南。

加東加西多可神東。

神西飾東飾西揖東。

揖西赤穂佐用完栗。

田數二万二千世六丁

高六十五万石余

昔ハ針間と書レ

廳飾磨姫路

是山陽道の区也と

社も多し。若しの松を

名株數多し。飾磨は

其國也。ふし。松葉糖は

第一美作山國也。た

出る。東河。中をなる海は

崇神天皇十年吉備津彦の命を西の道へ遣さん荒振神を征せむ翌年ふ悉く討平らげし帰陣ある四道將軍これより

○土産 木綿 豆袋 綿 矢綱 楸 組 福 鏡 鞆 靱 革 襦 搦 搦 海 魚 塩

○美作 土郡

山河あり方きは勝山。後を流る河あり。若に備前を注ぎ入る北条を其を都て管轄致さる。第三備前支部は天神

東南條東北條西北條 大庭真嶋久米北條 久米南條勝南勝北 英田吉野西條

田數二万六百七十丁 高二十六万石余

廳 北條 一田

○土産 鹽硝 硯石 葉州 川 魚

○備前 八郡

山之能山あり。地理往來。山河あり。方きは勝山。後を流る河あり。若に備前を注ぎ入る北条を其を都て管轄致さる。第三備前支部は天神

脚野津高赤坂櫻梨
和氣邑久上道思嶋

田數二万三千二百丁

高四十二万石余

廳 岡山一田 岡山

往古ハ吉備國トイハス

龜元年備前備中備

後と三國ふかつ

○土産 木綿綿素

麩陶器 菜艸 海魚類

外と岡山縣を其國と一帯

等々糖以てするを架

第四備中へ尖るる。南へ

流るる河を近川と云はるる

八幡山。北より剣山をひらぐ

○備中 十一郡

上房阿賀川上小田

後月下道賀陽都宇

浅口窪屋佐多

田數二万八百十三丁

高二十六万四千石

廳 小田備中一田

古ハ吉備中縣又吉

備中国ともいふ

○土産 紫根木綿

赤瀧埴埴打はるる。その

宮内へ古備中を三備を

ちる。後の二宮を。小田

新河此宮あり。備中一國

備中を。古郡之。古郡を

織漆秋原紙。小菊大
高摺紙。藤行李。柳

○備後 十四郡

沼隈深津。安那。呂治。

芦田。神石。御調。世羅

三駱。三上。奴可。甲怒。

三次。惠蘇

田數九千二百五十七

萬三千二百五十七

○土產 豐表。烟州

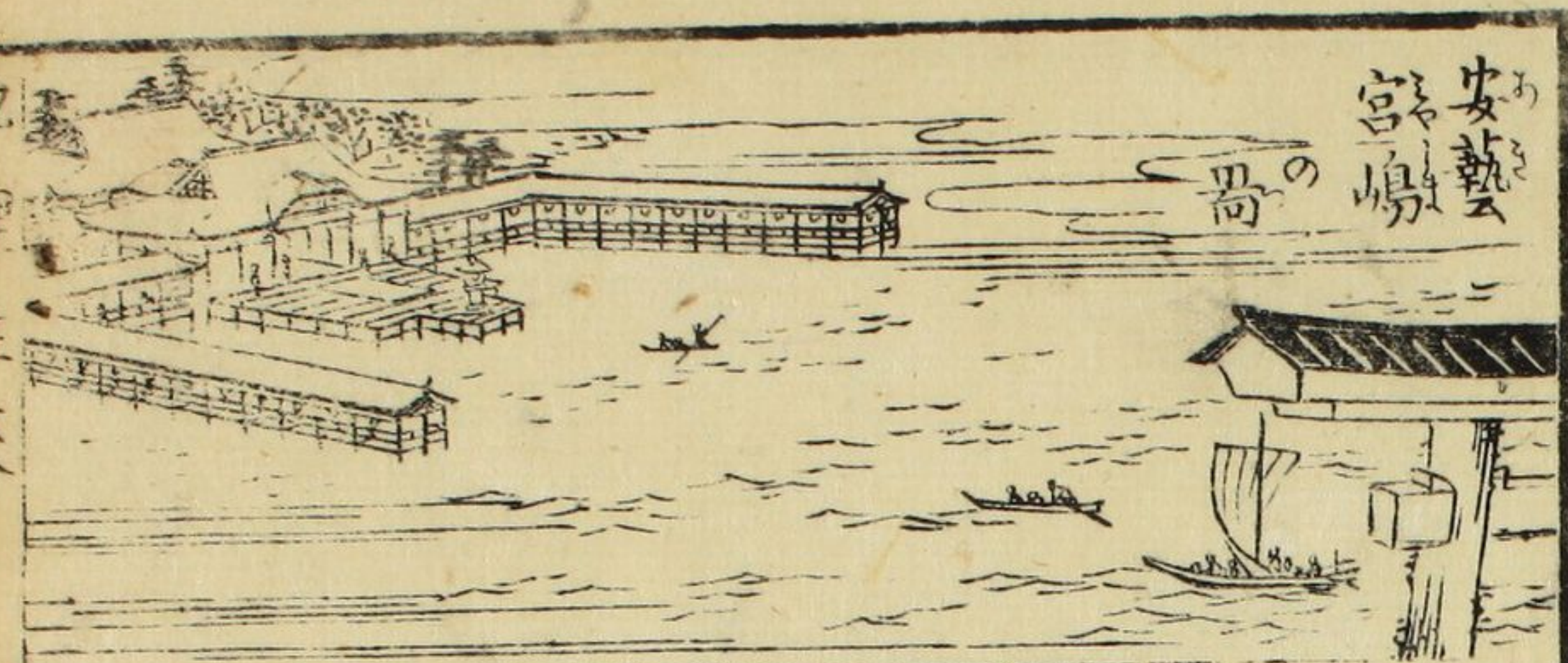
第五の備後を西北へ。江乃

河をぐる石を入る。まき田

葦田川。南河。鞠津。まき

丸の。日東。第一。取。藤。堂。

韓人。事。強。造。一。ヶ。ら。と



第六安藝の宮嶋を本

郡。三。京。北。事。と。と。と。ま。の。中

中央の川。と。縣。と。南。の。方。

少。屋。河。と。海。入。る。大。島。

少。屋。河。と。海。入。る。大。島。

木綿綿 編笠

○安藝 八郡

沼田 佐伯 豊田 山縣
高宮 加茂 安藝 高田

田數 二万七千八十丁

高三十二万石

廳 廣嶋 備前 備後 八郡

○土産 半紙 紙子
水晶 苜蓿 鹽 硝 灼柿
山葵 海魚 鰺 鱈 兼 藍

安藝一國 備後 八郡

備前 備後 備中 備前 備後 備中 備前 備後

備前 備後 備中 備前 備後 備中 備前 備後

備前 備後 備中 備前 備後 備中 備前 備後

備前 備後 備中 備前 備後 備中 備前 備後

古ハ安岐又ハ安木

とも書

○周防 六郡

都濃 玖河 吉敷 熊毛

大嶋

田數 七千六百五丁

高四十九万石

廳 山口 周防 一四

○土産 半紙 斤切

高。東南の海中。徳島
を大船。山口。防
長。玉を。播。播
第八。長門。南西
方。海。海。

書板紙紫漆布縮
布結鹿子。三月筆

○長門 六郡

阿武豊浦。大津厚板

美根見嶋

田數四七百六丁

高四万石余

古ハ穴門國又穴戸サ

書ハ

○土産 米硯烟州

多クを西に方々あるを西

南ハ九州の邊を和向國

赤間冥を北海と玄海

海の取取よして二所も要

地乃海門なる也

石炭磁器素麩基石
某州海奥印籠

南海道々六ヶ國

○紀伊 七郡

伊都那賀名州海部

有田日高牟婁

田數七千百九丁

高四万石余

古ハ木国又紀国とも

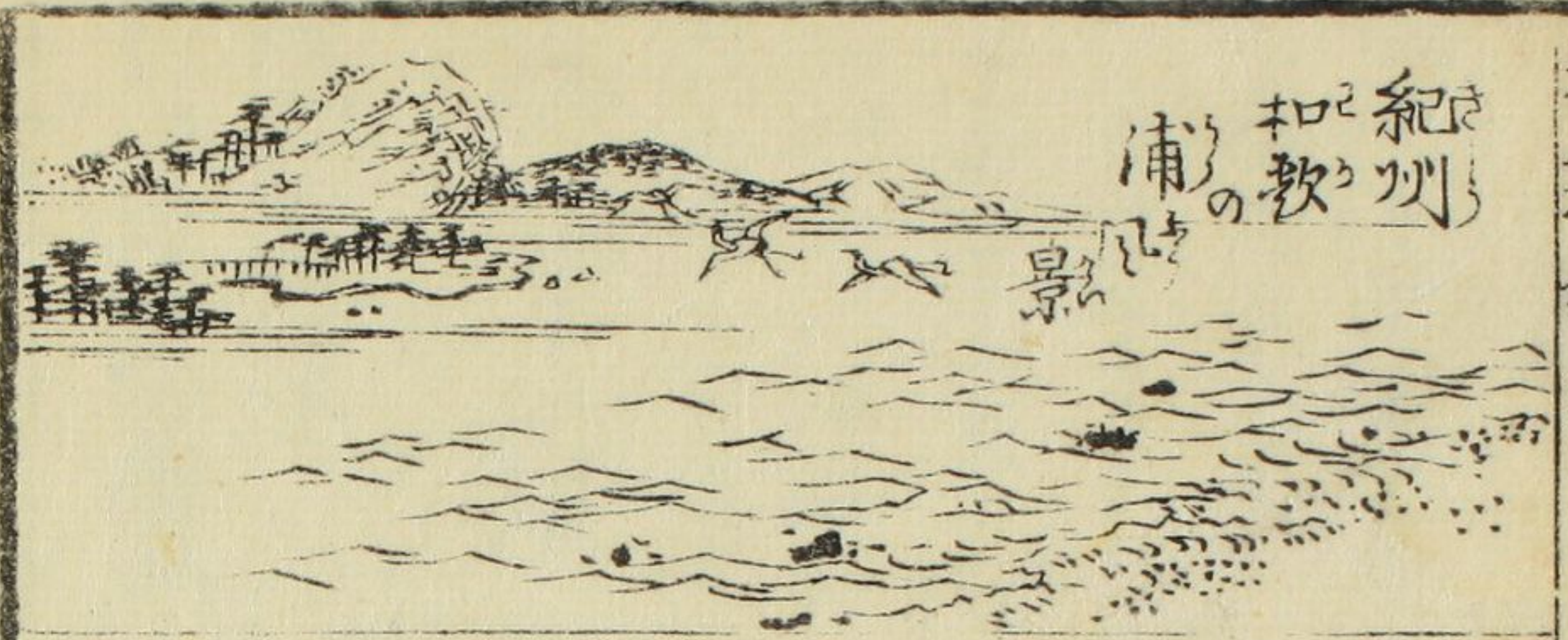
南海道を六ヶ國紀伊を

北方山嶺を淡路と伊豆ハ四

才海。土地を三所と離るれ

海路を以て一道と云

第一紀伊を畿内と云。南に



あきる國よりして、東に海、西に
 三方に皆、海に接する大津、大和、
 大和、橋本、北の方、山嶽、
 多々、高野山、仁保川、舟、
 此下、流るる、南に、那智山

書に今紀伊国と書
 てきの国、攝津国と書
 るはの国と云ふ、同ト
 廳、和歌山七郡
 ○土産、蜜柑、良材、
 蜂蜜、推茸、漆器、岩茸、
 繭、松、煙、鯨、海魚、海州、
 茶、州、奇石、傘、紙、
 ○淡路、二郡
 三原、津名

雲雀山、南の岬を、岬と云ふ、
 西に、少子、あけを、北に、地を、海、
 部、和と名、甘、たるを、粟、木、島、
 社、多、あり、和、歌、山、鶴、の、國、
 由、で、七、郡、多、る、積、津、の、こ

田數二千八百七十一丁

高九万八千石

古ハ淡道嶋まき淡道まき

道まき書まき

○土産 陶器 木綿

五色撒石 海魚類

○阿波 十郡

三好 美馬 阿波 板野

麻植 名西 名東 勝浦

那賀 海部

田數五千二百四十一丁

高三十三万石余

廳 名東 阿波 德嶋

古ハ粟まき書まき

○土産 藍玉 塩 木

綿材 木 索 麩 蛤 蚶 燧

石 和布 麻尾菜 海魚

○讃岐 十一郡 三島

大内 寒川 三木 山田

香川 阿野 鶴足 那珂

第二淡路を記す此水又

當る大名前にて倚る小

流を安の殿 馭盧島と云

は日本第一のお生國何

そは流も皆舟路に決す

先山あり。其流と三原川。

四方に飛島村あり

第一阿波の西と云はれ

諸河を界せり。及於る海岸

を。南に海あり。阿波の

多度三野。豊田

田數七千九百四丁

小豆嶋。塩飽嶋。直島

高三万石余

廳 香川。四 高松

。土産 砂糖。塩。素

麩圓座。海魚類

○伊豫 十四郡

宇磨。新居。野間。周布。

東村。越智。風早。和氣。

豆中央より。佐古山。眉山。

と。言。一。東。出。芳。野。川。良。

北。海。乃。小。乃。二。の。鳴。つ。湯。り。

名。東。乃。縣。を。阿。波。淡。路。

百。國。一。番。若。穂。上。と。

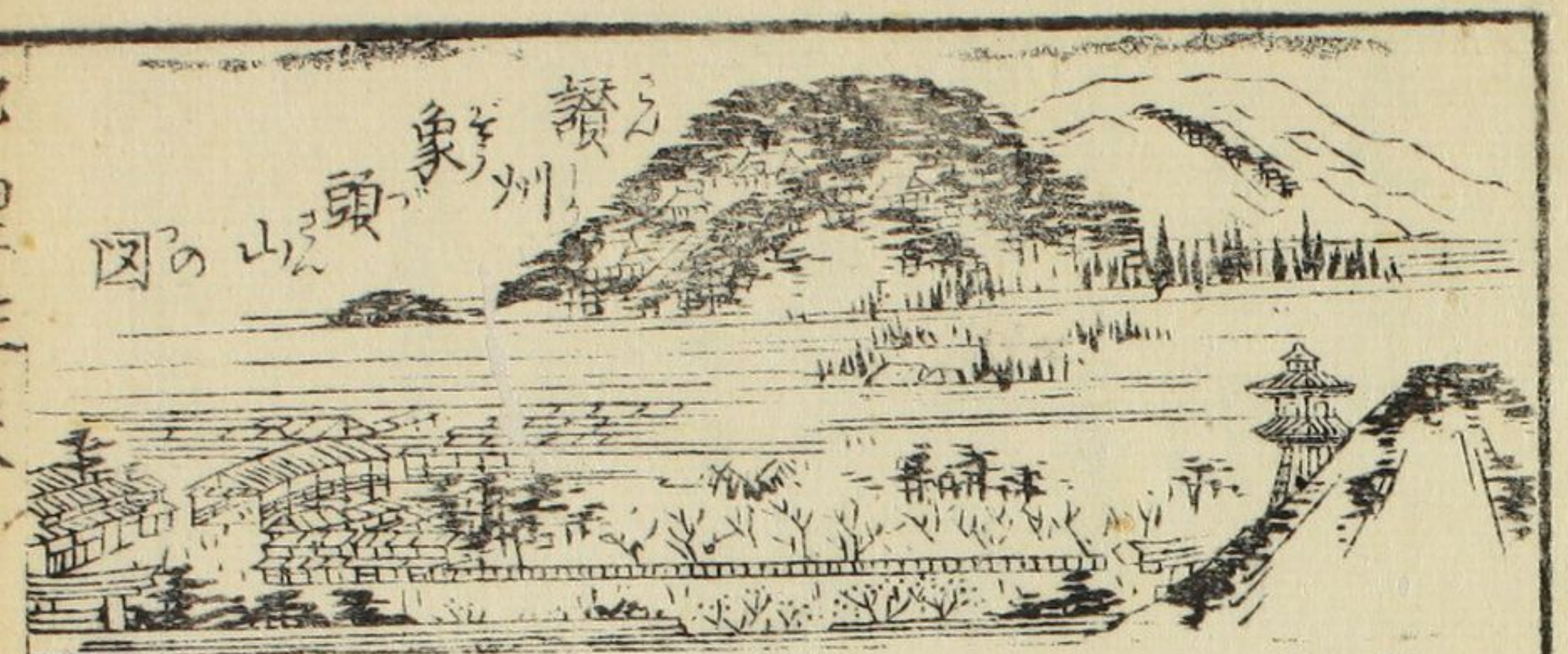
第四之則。ち。讃。岐。を。東。

も。ク。乃。若。き。名。の。野。山。後。野。

山。之。後。野。山。五。羽。山。よ。り。八。栗。

山。之。乾。乃。河。濱。山。之。後。野。

所。及。之。今。に。後。野。と。す。時。



讃州 象頭山 図

温泉伊豫宇和喜多
浮穴久米

田數二百五十百廿五丁

高四十六石余

廳石蔵十郡松山

神山四郡宇編

○土産 洞紙奉書

枚原布簾木綿

同錦茂新半其糸州

素麩五穀海軍

小豆嶋香川の筋を一國此

管轄する。廳水。碓氷

公守。石櫃山。南。信。山。中

第。其。あ。き。る。伊。豫。の。ま。を

定。行。石。櫃。山。南。信。山。中

昔ハ伊余又伊予と
書ク

○土佐 七郡

安藝。香美。長岡。土佐

吾川。高岡。幡多

田數六千六百五丁

高四十九石余

廳 高知。一。四

往古ハ土左。ま。都

法。とも。書。く。白。鳳。十

央。を。唐。岩。岳。あ。て。菅。生。山。東

南。土。佐。と。お。接。し。山。嶽。連。を

て。土。地。高。し。あ。少。方。な。る。海

者。を。岬。湾。島。嶽。嶺。次。を。と

少。海。中。に。突。出。し。高。山。岳。乃

三丰諸国大地震の時當国の田地半余
 万頃没して海と成り
 此時伊豆国ふ一ツの
 嶋出来くるといふ
 ○土産 紙類 靑紙
 茶袋紙 清長仙花紙
 砂糖 推草 樟松 炭薪
 駒鯉脯 良材 太布 海
 州 芋種 蜂蜜 野根 扱

形は蜂掃をふる。是をむ候
 隊は少當をたれ奉る。石藏船を
 十郡に神山縣を四郡あり
 酒之類は室積也
 茅はふるい土七の國西北倅

洞糸

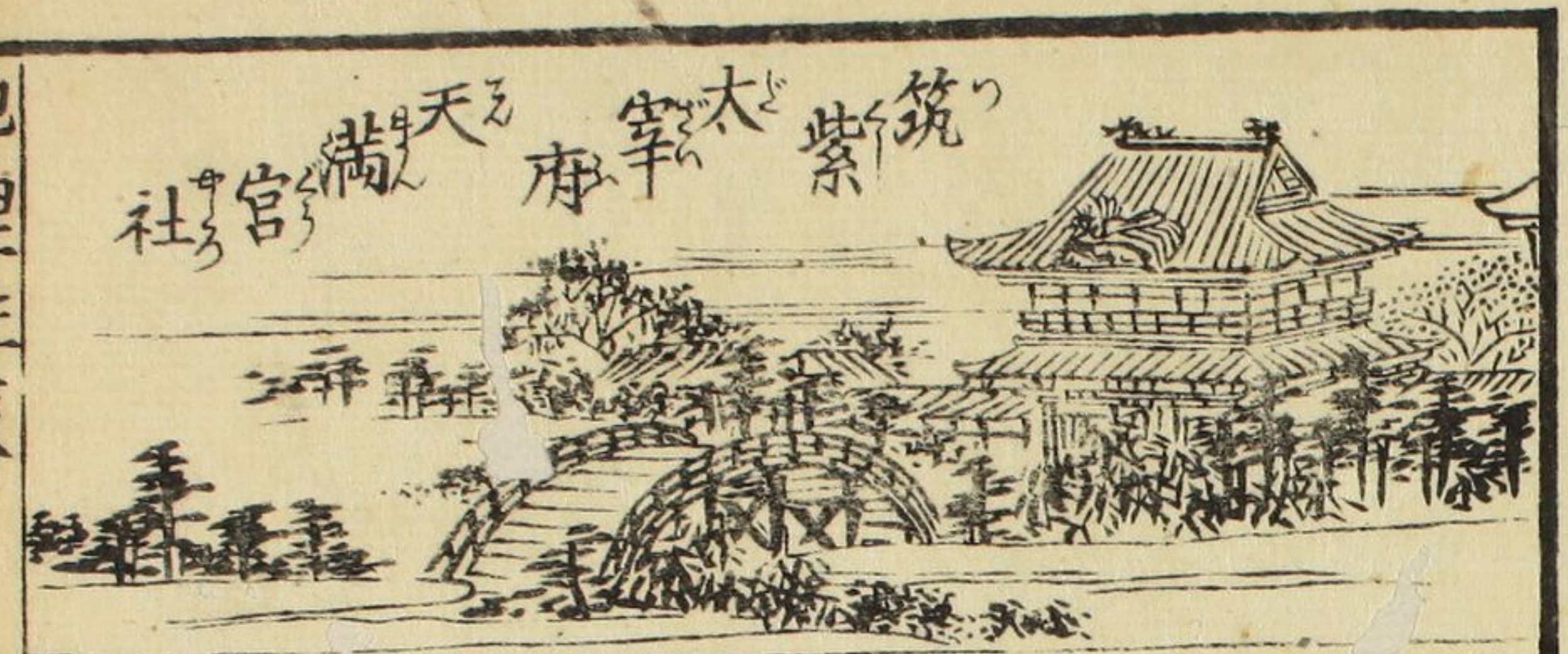
西海道十二箇國
 ○筑前 十五郡
 遠賀 宗像 鞍手 穂波
 嘉麻 上座 下座 夜須
 御笠 糟屋 席田 那珂
 早良 志摩 怡土
 田數二万九千七百五
 高六十五万石余

陸の界は山と険阻重
 冬は少雪を吐れ山積る
 續々山嶺 白加山 あり
 矢野山 角山 ぬの橋 あり
 山 杉本山 仁井山 あり 南の

廳 福岡 一田

往古ハ筑紫とも又
全志とも書す後ハ
筑前筑後の兩國合ハ
惣て西海道ハ筑紫と
シ其國數ハヤ九國
三嶋アリト天長元
年九月多禰嶋ト傳
テ大隅小入ル以後九
國二島ト稱ス

方ハ瀨山。傍テ流ク。波川。東
南ヲ岬トシ。申テ抱ク。南海ヲ
廣大ニ云。遂ニ北。大瀨。有リ。
高知。一。絲。江。建。有。レ。
一國ヲ。官。轄。以。



西海道ヲ十一國トシ。是ハ四方
海原トシ。西ヲ遠ク。吳越ヲ
見。小。野。解。素。ト。シ。レ。
其。第。一。筑。前。ト。シ。南。ヲ。筑。後
紀。多。志。持。一。少。瀨。久。兵。守。ト。

太宰府
 三笠郡小町の則国
 府なり當府の都
 九国二島を掌り且
 諸蕃の来聘かよび
 非常とまよる
 諸蕃といふて外国を
 唐土の今の支那あり
 三韓の今の朝鮮を

東高きハ所笠山。知と米山
 三像山。西北方に在雷山。
 山海原より望む見ると多
 多き其甲と。海を原まハ玄
 海島洋を別々河瀬。水

古ハ馬韓辰韓弁韓
 の三韓といふ後一統
 羅百濟高麗と改む
 皇国小始く貢獻す
 るハ任那国めて百濟
 の東南の国なりが
 推古天皇の御代より
 滅亡と
 探題職
 武家より此職を置く

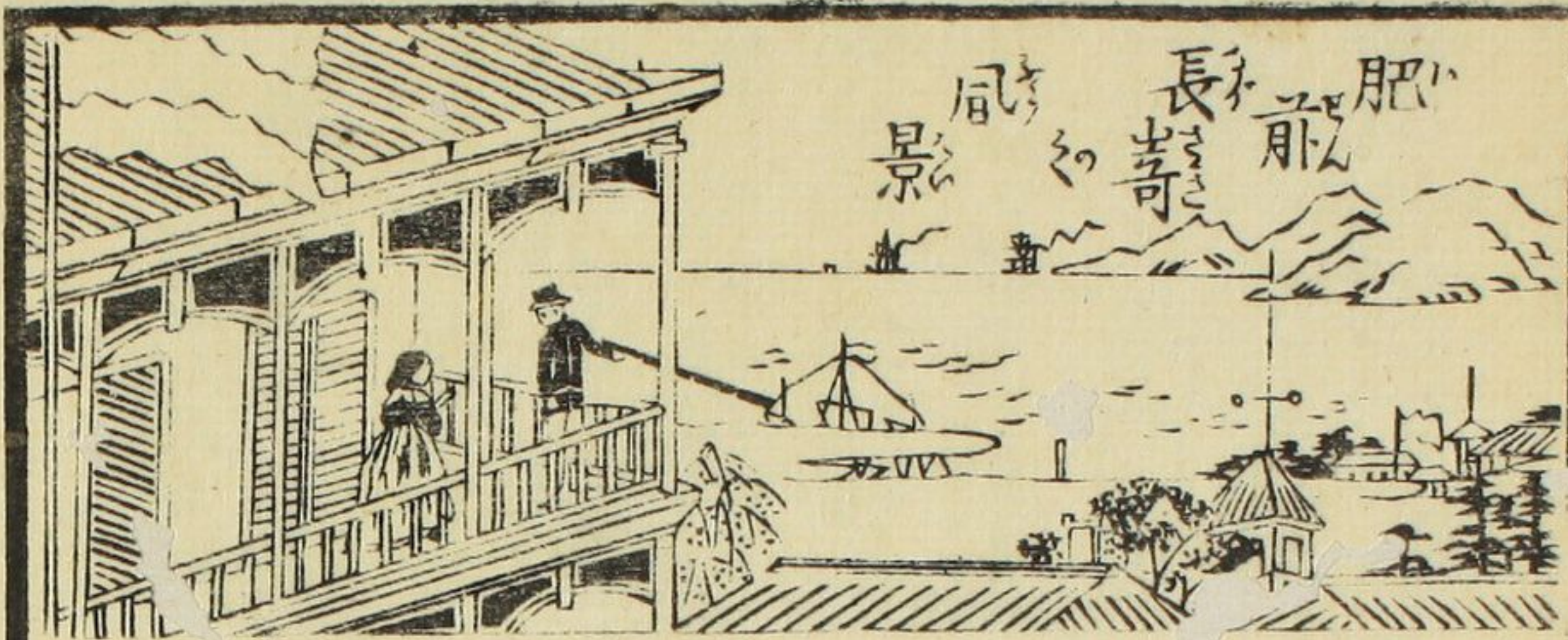
清て松浦宿禰を經ハ其
 玉成皆一島と管轄す
 第二北は筑後すて。あつ子
 山並山なる并島。水と繞るを
 筑後山中央有る者江州

伏見天皇（代）御宇永
 仁元年（永仁元年）兼倉の執権
 北条貞時（時）との一族兼
 時と始く法西の探
 題と為して西国と
 監督せしむ同時
 長門も探題と置
 て中国と掌らしむ
 文永十一年十月五日
 元兵對馬小入寇

あるに三港ハ玉比野原ナリ
 第一ニ是ノ前小島海軍路の
 寺皆山ナリ。陸ニあるは
 中ニ名譽ハ彦山ニ
 小倉の館を其國を一名管

十四日吉波を攻め
 二嶋と破る
 十九日二十日博多を攻
 戦し官軍多く賊と
 撃つ此夜大雨雨と
 賊船多く破れ賊兵
 遁走る賊軍不還者
 一万三千五百余人賊
 軍初め二万五千高麗
 軍八千合して二万三千

核波も。此所は法西鎮
 者も孝乃備の兵と二大
 隊。分肥後と是も也
 第四豊後を東北海面岬
 湾と多々。西と南一山



肥前長門
 影の景
 阻ち。高崎山之四極山湯山
 由布山錦嶽姫山板多下
 其市之志。新色山嶽の八噴
 火多に。東南の涉る舟岡川。
 大分縣を其國を皆一語ふ

人其殺さるる過半は
 支我兵の勇闘推し
 乙知るる建治四年
 六月五日又賊と志賀嶋
 小賊ふ其を敗る五日
 より十二日九日の戦
 争賊一度も勝とある
 と所らば肥前の鷹
 嶋子退く国七月初日
 腮肩大不作賊船皆

管長程す

第五肥前を筑前と筑

後東北西南と之を御前

嶋る所自と一乃と取す。

漁却北富饒基あび無き。

破船沈没し賊帰国

せんるもの十万人高番

賊七千余人

○土産 米。五穀。唐

織帶。地。練酒。海魚

○筑後 十郡

生葉。竹。堅山。本。由原

由井。上妻。下妻。三階

山門。三池

田數二百三十五丁

中より長崎の如き島を交

易し初の大港あり

播磨孫山南に壱まき

温泉嶽つれも高き嶺

えりる。佐賀の経路を

高五十三万石余

廳 三階 一田

○土産 五穀。石炭

紅花。木綿。紺糸

○豊前 八郡

企救。田川。京都。中津

筑城。上毛。下毛。宇佐

田數七百五十七丁

高三十六万石余

廳 小倉 一田

玉比久郡 名産 糖を以て

長崎 糸を以て 糸を以て

と對馬は兩國を併替

管轄するを以て

第六肥後を阿蘇山

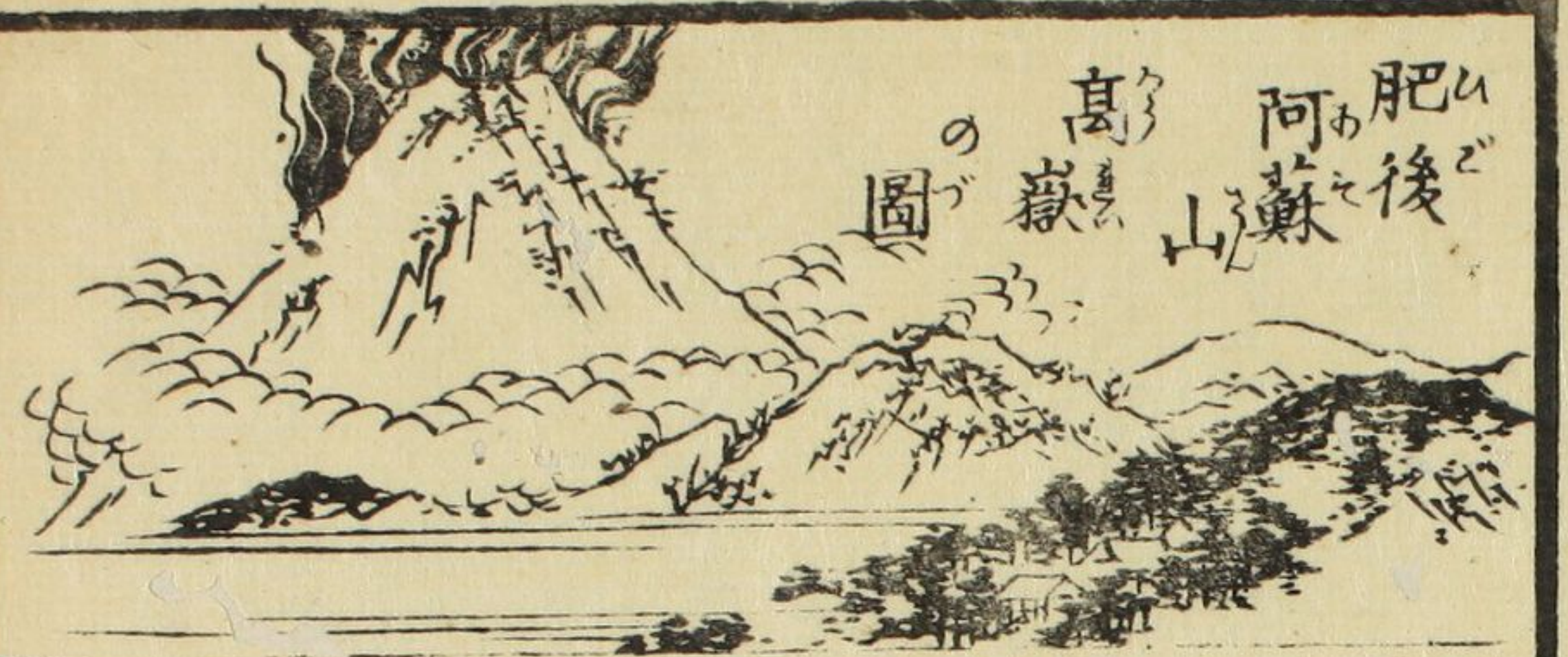
往古ハ豊國といふ後
小前後の兩國に分へ

○土産 小倉嶋硫
黄水晶山沖海魚

○豊後 八郡
国東速見大分海部

大野直入玖球日田
田敷五千五百坪下

高四三万石余
廳 大分四



肥後 阿蘇山 高嶽の圖

煙を絶やして白山程山

當海山本山の川尻河八

代川を家大ぬる。西北海

手ハ出將を三万四郡合を

和とす。三万三郡是()なる

代領ハ六郡ハ白川ハ

乃初なる。比下ノ常分鎮

西此諸者兵とをむま

第七日向を山北方。矢山嶽

行標。臺尾山。和年一宮

○土産 湯弘碁石
 塩硝水晶 藪墨表黒
 緋布 絞木綿 燧筆 官
 大竹 虎彪竹 切屢斗
 錫 梅海 奥炭 材木 糸
 州煙草
 ○肥前 土郡
 徳杵 高栗 松浦 藤津
 杵嶋 小城 佐賀 三根
 養父 基肄 神崎

于種名を高く。西邊より高
 嶺。まゝふ。石筋。石山。噴
 出。れ。は。兼。嶺。六。枝。鼻
 越。任。生。山。牛。嶺。松。原。川
 よる。と。る。り。れ。出。て。東。北。海。へ

田數一萬三千四百七十
 高七十万六千石余

礪 長崎 肥前 三郡
 佐賀 肥前 九郡

往古の火の国といふ後
 肥后 肥前 小分

○土産 米 石炭 磁
 器 茶 烟 州 異 長 畔 織
 木綿 画 筵 画 簾 海 魚
 西 凡 鯨 養 鰯 海 州

有てゆく。大。院。川。を。大。河。に。
 其。と。津。の。筋。を。玉。内。で。
 五。新。名。宿。筋。を。取。り。上。
 第八大隅三方ハ山一々南を
 海へ出づ。肝。層。大。隅。二。郡。も。

○肥後 十郡
 玉名 山鹿 菊池 山本
 阿蘇 沱摩 飽田 合志
 上益城 下益城 宇土
 球摩 芦北 八代 天草
 田數 二万三千四百六十二
 高 八千四百石余
 廳 白川 九郡 熊本
 八代 六郡
 ○土產 糸 密 柑 陶

東南之分 大岬 熊毛 郡を
 程子 修 馭 漠 郡を 居 之 島
 之 其 北 南 海 對 岸 乃 寄
 海 上 凡 二 千 里 程 是 之 を 併
 之 其 國 と 之 凡 郡 城 乃 知 之



日向國 常 坐 之 郡 為 以 之
 第九 薩 摩 之 東 南 西 三 方
 海 之 東 北 間 之 日 陽 肥
 接 之 岬 灣 沙 以 數 多 之
 南 之 高 之 海 門 嶽 薩 摩

北野往來

卷之十一

十一

器絞木綿、煙官砥石、
皮名、燧石、基石、海魚、
海州、藥州

○日向 五郡

児湯、臼杵、那珂、宮崎、
諸縣

田數八千二百七十丁

高三十四万石余

廳 都城、日向、三郡内、
大隅、六郡、
美津、日向郡

富士とは是れ北より

紫尾山中央を薩摩山

形山、北、卯、是、那、宮、岳、東

少、北、走、一、向、島、三、嶽、を

以、海、た、皇、西、海、龍、崎、形、ハ

景行天皇代始、日
向国と名づけらる

○土産 松村、炭、苦
竹、漆、藤、行、李、黄、葉、茶

五倍子

○大隅 八郡

始羅、肝、属、噲、大、隅、
美、斯、素、原、熊、毛、取、謨

田數四千七百七十丁

高十七万石

三島併せし一郡とん鹿

見、島、知、ハ、其、國、を、一、島、に

ま、大、隅、で、二、郡、北、知、球

地、併、せ、し、皆、鹿、形、は、さ、ら、あ、く、

此、要、を、結、者、を、多、く、有、り、

和洞六年四月日向國
四郡と今て當國と置

く天長元年九月多
瀬島と傳く當國屬

○土産 鉄炮
○薩摩 三郡

鹿兒島 嶺山 給黎 楯

宿穎娃 河辺 阿多 日

置 薩 伊 作出 水 高

城 飢 嶋

田數二万五千石下

高三万五千石余

廳 鹿兒嶋縣

大隅三郡
薩二郡
琉球國四

古の風聞と書け

○土産 黒砂糖 杖材

烟州 紅花 紫根 赤芋

硫黄 樟腦 太筆 牧馬

生蠟 木綿 緋 蠶 蠶 人

參 海人草 莪木

也 里 生 木

第 十 一 番 領 兵 八 四 小 隊

第 十 二 番 領 兵 八 四 小 隊

前 山 多 二 島 一 一 四 方

岬 灣 亦 乃 才 海 面 長 々

突 出 之 魚 釣 山 八 名 々 々

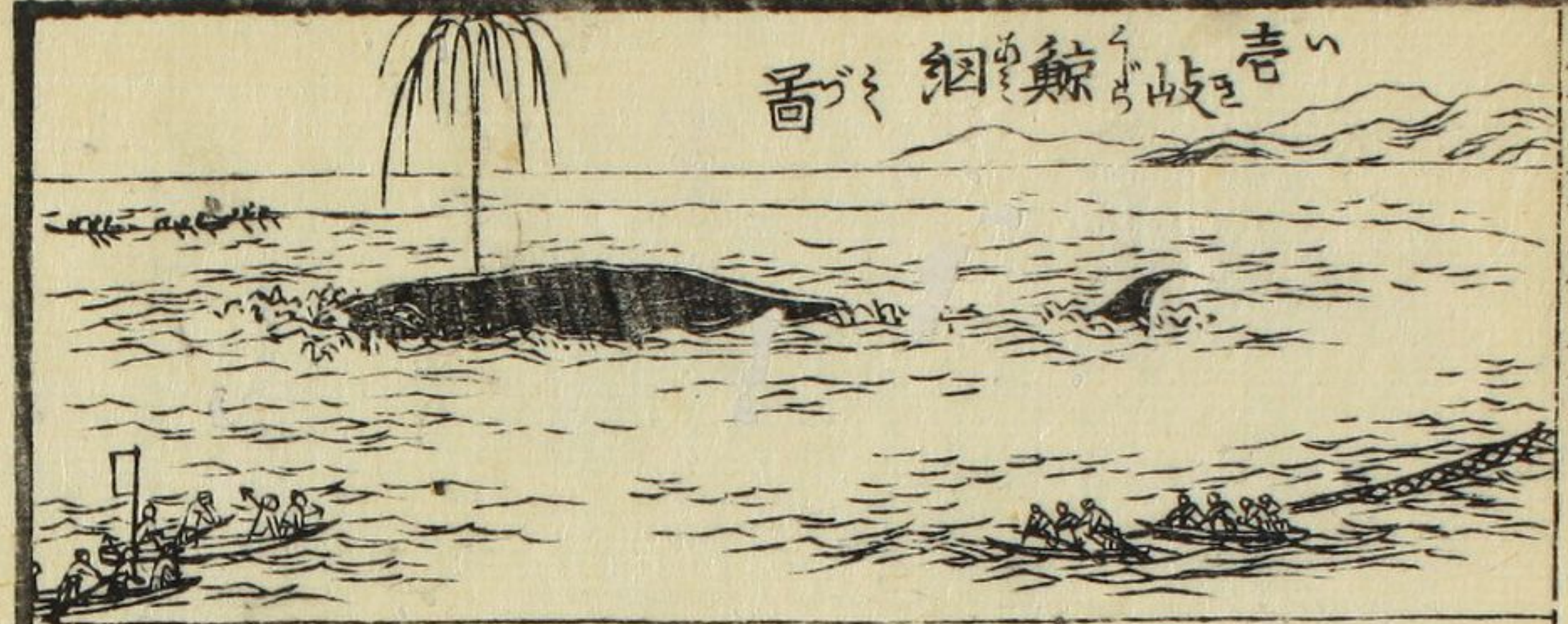
第 十 一 番 對 兵 八 四 小 隊

亦 乃 才 海 面 長 々

岬 灣 亦 乃 才 海 面 長 々

突 出 之 魚 釣 山 八 名 々 々

第 十 一 番 領 兵 八 四 小 隊



吉岐 鯨 網 番

吉岐の山何事も
 花ぬ島山を浅茅浦
 海音の音聞て名所
 折九阿比総名を住音
 此れまといひ或は日向の

○吉岐 二郡

壹岐石田

田數六百丁

高三万三千石

往古の伊吉嶋といふ

伊岐とも書け

○土産 綾布 海栗

鯨

○對馬 二郡

上縣下縣

國と云ふ人今此白隅薩之地
 くれぞ本お開府乃其を
 布此地ましくあるは神代の
 清江歌然る事といふを号
 まらあといふの

由里主

卷之

田數六百丁

高

古への津島又集嶋と

も書す對馬との三韓

の馬韓則ち百濟國

對馬とも和名

ぬり

土産 人參 青砥

石 弘推茸 鮑 鱈 斗

海栗

夫我邦の地勢も多し也。良坤

の伸び四方を海志道以小

此中番しそて寔を暖ふそく

多季候和し穀財產富

饒よそ不毛沙漠の所多く

○琉球國 十五島

沖繩嶋 計羅嶋 戸舞嶋

久米嶋 粟嶋 伊惠嶋

伊是那嶋 惠平座嶋 鬼貝

嶋 大嶋 徳嶋 永良

部嶋 与論嶋 宮古嶋

八重嶋

以上十五嶋

主府の沖繩嶋 那覇

港あり 鹿兒嶋

悪獸毒虫蛇を絶ち

人忠信と道致樂し之

皇化を慕ふ計を修り

之を以て孝子と書きて重んず

乃 楓浦 一 元 充る者多し

二百十里肥前長崎迄
三百里朝鮮釜山浦迄
四百五十里夕多サゴ迄
二百五十二里

○土産 朱琉球表
朱漆器駿馬 干布
芭蕉布 棕桐皮 椰肉
桂 泡盛酒

本朝國郡名終

予、此を其獲撰紙巻
乃矣

日本地理は未畢

明治五_壬申年九月御免許
同 十月上 梓

纂系輯
大阪府下
榎木正太郎

書肆
同心齋 榎本町
梶田喜藏版

同 松 通南壹丁目 九兵衛
同 書 通安土町東入 社
同 敷賀屋 真 助

弘通所

窮理
日新

發明記事

初編 二編

中本各三冊

右ノ書ハ元發明祖人ノ
 來由ニシテ其發明ノ
 器品凶器トシテ委細ハ
 書リテ其ノ
 蒸氣船蒸氣車及ビ米
 搗器織機械等ノ運用
 自在トシテ其便ノ
 開化ノ等發明工者ノ
 ナク此書ノ大慶ナル

石村貞章先生輯
 續々皇朝史略 中本
 大槻盤溪先生増補

右ノ慶長五年関ヶ原
 戰爭以來ノ治
 御一新ハ其ノ
 朝廷ハ御歴代且文武ノ
 任職ハ遠ク実事代
 正ノ皇明史略ノ文面ト
 ナク新撰史略ト
 ナク書ハ其ノ
 初學必讀ハ便書ナリ

諸

東京日暮橋三丁目
 同 二丁目
 同 芝神明町
 同 南大傳馬町
 同 大傳馬町三丁目
 京都山幸町通池
 同 寺町本願寺前
 同 醒井通魚店
 同 寺町通四條
 大和奈良
 同
 和泉 堺
 伊勢 津
 尾張名古屋
 駿河静岡
 常陸水戸
 陸奥仙臺
 加賀金沢

須原屋茂兵衛
 山城屋佐兵衛
 岡田屋嘉七
 近江屋半七
 袋屋龜次郎
 菱屋孫六衛
 錢屋惣四郎
 丁子屋庄兵衛
 田中屋治兵衛
 米屋平藏
 白銀屋弘三郎
 河内屋久三郎
 篠田伊十郎
 永樂屋東四郎
 本原屋市造
 須原屋安次郎
 菅原屋安兵衛
 近岡屋太兵衛

國

賣

弘

越中富山
 出雲松江
 備前姫路
 備前岡山
 備中井原
 備後福山
 周防岩國
 長門 萩
 紀伊若山
 淡路須本
 阿波徳島
 讃岐高松
 土佐高知
 筑前博多
 肥前佐賀
 肥後熊本
 薩摩鹿兒嶋
 肥前長崎

上市屋宇助
 尾崎屋喜三郎
 灰中屋益太郎
 萩田屋長三
 笹屋喜兵衛
 米屋助左門
 山城屋彦八
 坂本屋大次郎
 桑嶋屋文藏
 天満屋武兵衛
 本田屋茂兵衛
 改田屋茂兵衛
 深屋弥藏
 榎屋壯助
 豊前屋太平
 青木屋太輔
 小左屋太輔

